

令和7年度

「運営に関する計画」

<2月 最終反省>

大阪市立難波中学校

令和8年 3月

目次

総括シート

学校運営の中期目標	3
中期目標の達成に向けた年度目標	5
本年度の自己評価結果の総括	6

目標別シート

最重要目標 1 安全・安心な教育の推進	7
【基本的な方向 1-1 いじめへの対応】	7
● 【基本的な方向 1-2 不登校への対応】	7
● 【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】	7
● 【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】	8
● 結果と分析、改善点	8
最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上	11
【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】	11
【基本的な方向 4-2 「教科学力の課題改善」の推進】	11
【基本的な方向 5-1 体力・運動習慣の確立のための取組の推進】	12
【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】	12
結果と分析、改善点	12
最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実	15
【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】	15
【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】	15
【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】	16
結果と分析、改善点	16

大阪市立難波中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題（令和6年度末時点の状況）

現状

○いじめ対策

部活動や学級担任で抱えず、組織として対応すべく「いじめ対策委員会」を通じた確認・対応の体制を作れている。認知数は例年と大きく変わらず、初動で大きく発展しそうな件や、相互認知等複雑化する件、大勢がかかわる件などでは積極的に認知して対応に当たるよう努めている。

○不登校

不登校数の増加に関しては、新たに不登校となる数も含めて全国の増加率と足並みをそろえる形で増えている現状がある。対応に当たる人員の課題もあるため、欠席連絡アプリと並行し、安否確認と学習保障、保護者相談や家庭へのケアも含めた様々なアプローチを組み合わせながら臨んでいる。

○規則正しい生活

遅刻生徒が多い現状がある。昼夜逆転気味の生活の一因として、スマートフォンをはじめとした電子機器の使用率（スクリーンタイム）も他校と比較して高い現状がある。また、遅刻生徒の朝食欠損率に相関が見られる。家庭への連絡・啓発に留まらず、各生徒の課題の根底にあるものに目を向け、生徒とともにできることを進める方法について健康教育部・生活指導部に相談しながら検討していく必要がある。

○読解力・情報活用能力

「対話的な授業」の実施機会が小学校と比較しても少ない。ICTの積極活用と同時に進める必要があるが、日々の対応に追われ、授業準備に十分な時間を割くことが難しい教員の姿もある。単元によってバランスよくICTと対話的な授業を振り分ける等について、研修を通じて「学びの方法のバランスの良い調整の仕方」についても研究する必要がある。

○理数教育・英語教育

各種調査から、数理的処理の分野、英語では「聞く」「話す」の分野において、学年が上がるにつれて伸び悩む傾向がみられた。「対話的な授業」がこれらを打開するひとつのメソッドでもあるデータがあることから、読解力の取り組みを各教科においてもさらに取り入れる必要がある。

○学習習慣

授業のみで補うことの難しい反復練習や、個別の習熟の進度に合わせるために自主学習は欠かせないものである。スクリーンタイムが長い本校の現状を踏まえ、自主学習を進めることができる場所と時間を学校でも創出し、家庭を支援できる体制づくりを、場所とスタッフの確保という視点と合わせて構築していく必要がある。

○ICT機器の活用と働き方改革

上記現状を解消する方法の1つとして、効果的なICT機器の活用をさらに進める必要がある。結果として教職員がゆとりをもって業務に当たることができるよう、ICTアシスタントへの相談体制を作ること、デジタル採点・欠席連絡アプリによるダイレクトな保護者連絡等による直接的な業務軽減を図ることについて、職場全体として広げていく必要がある。

課題**●いじめ事案の報告体制**

いじめ対応に向けて「いじめ対策委員会」など組織による対応を行えるよう、年に2回の研修、事案発生時の周知に努めているものの、報告の遅れや対応確認前に動いてしまいかねないケースがある。複数生徒が関わる等緊急性のあるものも含めて、事案発生時の報告体制を徹底していく必要がある。

●不登校生徒の学習保障

浪速区の登校支援サポーターによる別室開放と、スタディサプリのモデル事業を効果的に活用し、家庭内や開放された別室にて自習による学習進度の調整をはかる。出席認定に向けた報告体制の構築、別室利用者の基準作り、成績の見取りに向けた校内の評価体制の基準作りが急務となる。

●朝食欠食率の改善策

保護者向けの通信を発行し、朝食の重要性を伝え、食育プログラムを通じ、簡単に準備できる朝食メニューを紹介するなど、朝食準備が難しい家庭に対する手立てを講じる。

●読解力・情報活用力

国語の「書く」が全国平均を上回る結果ながら、言語活動が不足している状況。読書習慣、ディベート、プレゼンなどの協働学習を全教科で推進するため、校内研修の中核に「対話的授業」を位置付けることにより、授業による言語活動の充実をはかる必要がある。

●理数教育

理科の分野別の分析から、どの学年も計算をからめた数処理に課題がみられる。数学は証明に顕著な苦手意識がみられる。本単元にかかわる場合には、積極的に習熟度別分割等を行い、苦手な層の底上げをはかる必要がある。

●英語教育

「聞く」「話す」が伸びにくい背景に焦点を当てる必要がある。家庭学習の習慣が少ない層が一定ある本校の事情を踏まえ、授業中にリスニング、スピーキングの時間を確実に確保していく必要がある。3年になると入試が意識され、バランスよく進めるのが難しくなることから、1・2年生でしっかり習慣化させる授業作りの構築が必要である。

基礎的な反復、「書くこと」への苦手意識を下げる取り組み、習熟度別分割による苦手層の底上げが必要である。C-NETを計画的にこれらの補強として活用することも大切である。

●放課後学習と学習習慣の確立

家庭学習をする環境確保が困難な層に向けた手立てとして、毎月「放課後学習週間」を開催し、学びサポーターを起点とした自主学習活動の時間を設ける。各教科で補充学習等が必要な場合も、この取り組みを意識して進めるよう教務部を通じて校内周知を進める。

●ICT機器の活用

学習者用端末がchrome book 端末に代わることで、端末持ち帰りを進めていく観点から、新たに家庭でも課題に取り組むなどの検討を進めていく必要がある。

●働き方改革の推進

教職員の長時間勤務については、前年度より減少しているものの、部活動顧問を中心に以前長時間勤務の中で日々の業務に向き合っている状況がある。ゆとりをもって生徒に向き合うためにも、業務の引継ぎとワークライフバランス支援員・スクールサポートスタッフによる事務作業軽減などを効果的に活用する必要がある。

中期目標（R3～R7）

安全・安心な教育の推進

全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和7年度末に **82%以上** にする。

- R3: 75.2% R4: 80.0% R5: 76.0% R6: 84.6% **R7: 79.2% 未達成**

全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和7年度末に **95%以上** にする。

- R3: 94.2% R4: 92.8% R5: 93.3% R6: 93.9% **R7: 96.7% 達成**

全国学力・学習状況調査における「自分には、良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和7年度末に **77%以上** にする。

- R3: 72.5% R4: 81.9% R5: 77.3% R6: 86.2% **R7: 86.9% 達成**

未来を切り拓く学力・体力の向上

全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を、令和7年度末に国語・数学とも **1.00以上** にする。

- R3: 国語 0.94／数学 0.96 R4: 国語 0.96／数学 1.05 R5: 国語 0.92／数学 0.92

- R6: 国語 1.03／数学 0.90 R7: 国語 0.90／数学 0.79 未達成**

本市調査(大阪市英語力調査)における CEFR A1 レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を、令和7年度末に **56%以上** にする。

- R3: 52.6% R4: 48.2% R5: 45.0% R6: 48.4% **R7: 62.2% 達成**

全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、令和7年度末に男女とも **1.01以上** にする。

- R3: 男子 0.99／女子 0.99 R4: 男子 1.11／女子 0.98 R5: 男子 0.95／女子 0.89

- R6: 男子 1.07／女子 1.02 **R7: 男子 0.96／女子 0.96 未達成**

学びを支える教育環境の充実

学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除き、授業日において学習者用端末を毎日使用する。

- R4: 100% R5: 100% R6: 100% **R7: 100% 達成**

「学校園における働き方改革推進プラン」における、教員の勤務時間の上限に関する基準1・2を満たす教職員の割合について、令和7年度末に大阪市平均以下にする。

- R4: 基準1…38.71% 基準2…54.84% R5: 基準1…31.03%、基準2…55.17%

- R6: 基準1…47.36% 基準2…68.42% R7: 基準1…52.6%、基準2…78.9%**

全国学力・学習状況調査における「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和7年度末に **75%以上** にする。

- R3: -% R4: -% R5: -% R6: 72.3% **R7: 74.7% 未達成**

2 中期目標の達成に向けた年度目標

安全・安心な教育の推進

年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を **87%以上** にする。

年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を **前年度より減少** させる。

年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を **76%以上** にする。

未来を切り拓く学力・体力の向上

年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を **43%以上** にする。

中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団にお

いて経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
 中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の生徒の割合を21%以下にする。
 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上にする。

学びを支える教育環境の充実

授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
 年度末の校内調査における、「ICT機器を校務や学習活動、心の天気など相談事の機会として、有効に活用していますか」に対して、肯定的に回答する教職員の割合を80%以上にする。
 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を84%以上にする。
 学校図書館貸出冊数（生徒1人当たりの年間貸出冊数）を3.5冊以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通じての成果

項目や取組の重点の置き方について

目標を達成できなかった項目に見られた課題について

成果を伸ばし課題を改善するために、次年度に向けて取り組むこと

大阪市立難波中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
安全・安心な教育の推進 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 87%以上 にする。 R7:77.4% 未達成 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を 前年度より減少 させる。 1学期: 改善率 36.5% 達成 年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 76%以上 にする。 R7:78.2% 達成	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容01【基本的な方向 1-1 いじめへの対応】 ・Hyper-QU を1学期に実施・研修に参加することで、学級集団の状態を把握し、いじめや不登校、学級の荒れなどの未然防止への見通しをもつ。 ・「大阪市いじめ対策基本方針」について校内研修を実施し、教職員に周知をする。 ・いじめの疑いがある場合、状況に応じて「いじめ対策委員会」を立ち上げ、迅速な連携を図る体制を構築し、解消については必ず組織的に確認を行う。 ・外部講師による SNS 安全利用教室を開催し、ネット上のいじめについて啓発する。 年度末の校内調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答を 97%以上 にする。	C
取組内容02【基本的な方向 1-2 不登校への対応】 ・Hyper-QU を1学期に実施し、学級集団の状態を把握し、いじめや不登校、学級の荒れなどの未然防止への見通しをつける。 ・教職員研修を実施し、生徒理解を深め、きめ細かな対応にあたる。 ・学習動画の活用や浪速区の登校支援サポーターによる個別指導を進め、不登校の生徒の学習機会を確保する。 不登校生徒について、「改善が見られた」とする割合を 前年度より向上 させる。 年度末の校内調査「放課後学習会や、授業以外の時間を使い、自習や家庭学習に取り組もうとしていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を 60%以上 にする。	A
取組内容03【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】 ・道徳教材を通じて、生徒が自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深められるよう、教員の授業力を高める。 ・道徳の研究授業、相互参観、指導法についての研修を計画的に実施し、教員の授業実践の機会を増やす。 年度末の校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を 85%以上 にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容04【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> 外国人教育、特別支援教育、地域学習、平和学習等の人権学習を、生徒の発達に応じて系統的に学び、様々な個別の人権課題についての知識を深める。 すべての学年において、人権教育に体験的な学習や発表の機会を取り入れ、知識のみに陥らない教科横断的な学習の工夫を図る。 年度末の校内調査「生命の大切さや人権について学んでいますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を 96%以上 にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容01 <中間反省 進捗>【基本的な方向 1-1 いじめへの対応】 <ul style="list-style-type: none"> ・Hyper-QU を1学期に実施・研修に参加することで、学級集団の状態を把握し、いじめや不登校、学級の荒れなどの未然防止への見通しをもつ。 →研修内容を教職員へ伝達し、調査結果を活用した生徒へのかかわりや教育相談等を行っている。 ・「大阪市いじめ対策基本方針」について校内研修を実施し、教職員に周知をする。 →年度当初に校内研修、二学期当初に教育委員会配信のいじめ研修教材を実施し、いじめの定義や指導方針の確認を行っている ・いじめの疑いがある場合、状況に応じて「いじめ対策委員会」を立ち上げ、迅速な連携を図る体制を構築し、解消については必ず組織的に確認を行う。 →事案に対し第一発見者は、学年・生活指導部・管理職へ報告。指導方針を検討し組織的な対応を行っている。 ・外部講師による SNS 安全利用教室を開催し、ネット上のいじめについて啓発する。 →1,2年生を対象に1学期に実施した。 ・年度末の校内調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答を 97%以上 にする。 →7月実施の調査では、肯定的な回答が95%と目標に達していない。行事や学級経営の中で日常的に思いやりや豊かな心を育める生徒対応を心掛け、人権意識・相互尊重の意識の醸成に努める必要がある。 →年度末の校内調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的な回答は 【93.5% 未達成】 すべての取り組みを継続し、10月にも「いじめについて考える日」の第2回の取り組みを実施したものの、肯定的に回答する割合は3%減少した。いじめ行為についての認識や捉え方、「理由があればいじめてもよい」ということについて、次年度は踏み込んだ教育活動を実践する必要がある。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容02 <中間反省 進捗> 【基本的な方向 1-2 不登校への対応】

・Hyper-QU を1学期に実施し、学級集団の状態を把握し、いじめや不登校、学級の荒れなどの未然防止への見通しをつける。

→実施済み。今後研修内容を踏まえ、生徒理解の向上をはかる計画。

・教職員研修を実施し、生徒理解を深め、きめ細かな対応にあたる。

→年度当初に研修、毎月数値とともに不登校生徒の個別情報について確認。

・学習動画の活用や浪速区の登校支援サポーターによる個別指導を進め、不登校の生徒の学習機会を確保する。

→スタディサプリを全校生徒に展開し、個別教科等で実施を進めた。登校支援サポーターが週2回集団になじみにくい生徒への個別指導を実施している。

・不登校生徒について、「改善が見られた」とする割合を前年度より向上させる。

→R6・6名

→R7・19名 達成。登校支援サポーター・自立支援アシスト事業による積極的な自立活動支援により、大幅な数値向上につながっていることが分かった。引き続き取り組みを推進する必要がある。

・年度末の校内調査「放課後学習会や、授業以外の時間を使い、自習や家庭学習に取り組もうとしていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を60%以上にする。

→11.4% 達成。サポーターを効果的に活用し、教務部や学力向上委員会と連携して毎月放課後学習会を周知・実施することができた。取り組みを継続していく。

取組内容03 <中間反省 進捗> 【基本的な方向 2-1 道德教育の推進】

・道德教材を通じて、生徒が自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深められるよう、教員の授業力を高める。

→5月「いじめについて・いのちについて考える日」を活用した研修、6月校内研修、7月小・中合同研修を実施。「多面的・多角的に考える」道德の授業力向上を図った。

・道德の研究授業、相互参観、指導法についての研修を計画的に実施し、教員の授業実践の機会を増やす。

→学力向上支援チーム事業のアドバイザーから、道德の専門的な指導をいただき、授業実践・相互参観を3回実施した。全学年計画に基づいた道德授業を実施できている。

・年度末の校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。

→92.2% 達成。引き続き交流学習を取り入れた道德授業を推進する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容04 <中間反省 進捗> 【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】

・外国人教育、特別支援教育、地域学習、平和学習等の人権学習を、生徒の発達に応じて系統的に学び、様々な個別の人権課題についての知識を深める。

→平和について考える日（7月）。1年生ピースおおさか見学。3年生文化活動発表会にて沖縄戦の報告。外国人教育・特別支援教育は今後実施予定。浪速同推協研修を活用した地域学習を実施中。

・すべての学年において、人権教育に体験的な学習や発表の機会を取り入れ、知識のみに陥らない教科横断的な学習の工夫を図る。

→1年生：ピースおおさか平和学習（5月）、多文化共生の体験学習（3学期）

2年生：特別支援教育の体験学習（3学期）

3年生：文化活動発表会「沖縄戦」の平和に関する劇

全体：いじめについて・いのちについて考える日（5月）の道徳授業、なにわ子ども人権文化祭（10月）国際クラブ発表、地域の幼保小・難波支援学校との交流発表実施予定。

・年度末の校内調査「生命の大切さや人権について学んでいますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を96%以上にする。

→98.3% 達成。一方で、いじめとSNSへの拡散等の情勢を考え、引き続き生命や人権について丁寧に取り組みを進める必要がある。

次年度(今後)への改善点

①いじめ部分の取り組みについて、変更や工夫を重ねる必要がある。次年度に向けて、対策や具体的な方策について、議論し生徒に返していく。

②不登校対応は好転、登校支援サポーターの活用を軸とし、取り組みを継続実施する。

③道徳は次年度は拠点校ではないが、引き続き授業力の工夫も含めた取り組みを進める。

④人権教育の取り組みも継続的な好転。取り組みを継続実施し、現在の課題に取り組みの側から光を当てられるようつなげていく必要がある。

大阪市立難波中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
未来を切り拓く学力・体力の向上 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 43%以上 にする。 →R7:45.6% 達成。 中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 前年度より1ポイント減少 させる。 中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 前年度より1ポイント減少 させる。 →国語 R6:3.5%→R7:5.5% 未達成 数学 R6:20.9%→R7:8.8% 達成 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の生徒の割合を 21%以下 にする。 →R7:21.0% 達成 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 82%以上 にする。 →R7:87.6% 達成	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容05【基本的な方向4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進】 <ul style="list-style-type: none"> 総合的読解力の取り組みと教員の相互授業参観企画を組織的・計画的に進め、対話的な授業実践の機会を増やし、生徒の主体的に学びに向かう力の観点への見取りを向上させる。 探究・読解プログラムや体験的な活動を全学年で実施し、生徒の興味・関心を伸長させ、多様な進路への道筋を作る。 友人と協働する経験から、連帯意識や達成感を涵養し、互いを尊重できる人間性を養う。 校内調査における「今までやったことのない課題にも喜んで取り組める」について、肯定的な回答をする生徒の割合を 70%以上 にする。	B
取組内容06【基本的な方向4-2「教科学力の課題改善」の推進】 <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と学習習慣の両軸を調整するため、放課後学習週間を定例で設定し、学習への苦手意識が強い生徒には動画学習や反復学習などに取り組む場所を設け、支援スタッフにより安定した運営を行う環境を構築する。 上記学習会への保護者理解の促進を図るため、懇談等を効果的に活用する。 年度末の校内調査「放課後学習会や、授業以外の時間で、自習や家庭学習に取り組もうとしていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を 60%以上 にする。 年度末の教職員向け校内調査「学力に課題を抱えた生徒について、放課後学習への促しや、少人数分割のきめ細やかな指導、その他補習等の手立てを講じていますか」に肯定的な回答をする割合を 80%以上 にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容07【基本的な方向 5-1 体力・運動習慣の確立のための取組の推進】 ・体育の授業、体育的行事、部活動を通じて、運動やスポーツに親しみ、体力の向上と心身の調和的発達を図る。 ・生涯にわたって運動に親しむ習慣を確立させ、健康の保持増進と体力向上を図る。 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の生徒質問紙「中学校を卒業した後も、自主的に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか」について、肯定的な回答をする生徒の割合を 75%以上 にする。	B
取組内容08【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】 保健、健康、食育についての特別授業を定期的実施する。 保健だよりや食育だよりを保護者に適切に周知し、生徒・家庭が食と健康の重要性についての意識向上を図る。 健康についての教材を活用した特別授業を 各学期 2 回以上 実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容 05<中間反省 進捗>【基本的な方向 4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進】 ・総合的読解力の取り組みと教員の相互授業参観企画を組織的・計画的に進め、対話的な授業実践の機会を増やし、生徒の主体的に学びに向かう力の観点への見取りを向上させる。 →授業や行事に総合的読解力の視点を取り入れて実践。全教員が年 1 回以上の研究授業を行う。11 月に指導主事を要請、相互授業参観・研究討議を実施し、主体的に生徒が学習に向き合える学習への研究を行い、授業改善を図る。 ・探究・読解プロジェクトや体験的な活動を全学年で実施し、生徒の興味・関心を伸長させ、多様な進路への道筋を作る。 →1 年生：校外学習（平和学習）実施、校外学習（自然体験学習）実施予定。 2 年生：職場体験学習、市内班別学習実施予定。 3 年生：平和学習（沖縄戦）を通して命の大切さを考える探究・読解プロジェクトを年間実施。 ・友人と協働する経験から、連帯意識や達成感を涵養し、互いを尊重できる人間性を養う。 →行事や人権総合学習を通じて、責任感や粘り強さ等の非認知能力の育成と、達成感・喜びを感じる活動を実践し、互いを尊重し合える生徒集団の育成を進めている。 校内調査における「今までやったことのない課題にも喜んで取り組める」について、肯定的な回答をする生徒の割合を 70%以上 にする。 → R7：81.6% 達成 。引き続き上記取り組み等を通じて主体的・対話的で深い学びの教育を実践し、非認知能力の育成の取り組みを継続する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容 06＜中間反省 進捗＞【基本的な方向 4-2「教科学力の課題改善」の推進】

・生活習慣と学習習慣の両軸を調整するため、放課後学習週間を定例で設定し、学習への苦手意識が強い生徒には動画学習や反復学習などに取り組む場所を設け、支援スタッフにより安定した運営を行う環境を構築する。

→6月より毎月放課後学習会を実施。サポーターにより安定して運営ができています。

・上記学習会への保護者理解の促進を図るため、懇談等を効果的に活用する。

→継続した学習会運営のため、今後、懇談会で話題に挙げる、学校HPの活用等を通じて、保護者への発信力を高める必要がある。

年度末の校内調査「放課後学習会や、授業以外の時間で、自習や家庭学習に取り組もうとしていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を60%以上にする。

→71.3% 達成。放課後学習会の定期実施を推進する。

年度末の教職員向け校内調査「学力に課題を抱えた生徒について、放課後学習への促しや、少人数分割のきめ細やかな指導、その他補習等の手立てを講じていますか」に肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

→96.2% 達成。一方、分割授業の機会や補習の機会はまだまだ少なく、習熟の課題がある生徒への個別の支援に向けた手立てをさらに講じる必要がある。

取組内容 07＜中間反省 進捗＞【基本的な方向 5-1 体力・運動習慣の確立のための取組の推進】

・体育の授業、体育的行事、部活動を通じて、運動やスポーツに親しみ、体力の向上と心身の調和的発達を図る。

→体育大会実施。球技大会は学年の実情に応じて実施した。仲間と協力することの大切さや向上心を持って取り組むように取り組む。

・生涯にわたって運動に親しむ習慣を確立させ、健康の保持増進と体力向上を図る。

→体育的活動を通じて、運動の楽しさや必要性を理解できるように取り組んでいる。

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の生徒質問紙「中学校を卒業した後も、自主的に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか」について、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。

→77.85.7% 達成。ほぼ全国と同水準の結果となった。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容 08＜中間反省 進捗＞【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】

- ・保健、健康、食育についての特別授業を定期的を実施する。
- 1年生：ティーンズヘルスセミナー、歯の健康教室 食育の授業
- 2年生：多様な性教育（講師招へい）、食育の授業
- 3年生：性教育（講師招へい）、食育授業
- 全学年共通：熱中症予防講座
- ・保健だよりや食育だよりを保護者に適切に周知し、生徒・家庭が食と健康の重要性についての意識向上を図る。
- 保健だより、食育だよりともに月一回で発行。
- ・健康についての教材を活用した特別授業を各学期2回以上実施する。
- すべての学年にて食育に関する授業を栄養教諭が実施。学年生との日々の様子に応じた授業内容とし、健康面を食育の観点から考える機会とした。

次年度(今後)への改善点

- ①主体的・対話的で深い学びについては、日常的に授業に仕掛ける等、もう1歩進んだ実践を積み上げる必要がある。
- ②放課後学習週間の実施形態については次年度検討するものの、継続的な実施をする必要がある。
- ③運動習慣は体育の授業以外にも学べるよう、休み時間や部活動、その他行事ごとにも活用して進める。
- ④食育の取り組みを通じて、引き続き健康の大切さを学ぶ機会を増やしていく。

大阪市立難波中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学びを支える教育環境の充実 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 55% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) 年度末の校内調査における、「ICT 機器を校務や学習活動、心の天気など相談事の際として、有効に活用していますか」に対して、肯定的に回答する教職員の割合を 80%以上 にする。 →端末活用率 R7: 43.5% 未達成。 教職員回答率 R7: 96.2% 達成。 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を 84%以上 にする。 →2月時点で 65.8% (※3月までを見て修正予定) 学校図書館貸出冊数(生徒1人当たりの年間貸出冊数)を 3.5冊以上 にする。 →R7: 1人当たり4.48冊 達成。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容09【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】 ・生徒の端末の「心の天気」を毎日実施し、生徒自身が心身の状況について把握し、教職員が生徒の状況の変化に気づきやすい環境を整える。 ・デジタル教材を整備して、自習の選択肢の幅を増やすことにより、不登校生徒の学習機会を保障する。 ・ICT 機器を有効に活用し、会議や事務連絡の伝達時間を効率的に進め、長時間勤務の削減につなげる。 心の天気の活用率を前年度より向上させる。 R6: %→R7: 56.5% ICT による生徒の悩み相談に迅速に対応する教員の割合を 100% にする。 R7: 100%	C
取組内容10【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】 ・ゆとりの日や学校閉庁日の実施、時差勤務制度の活用、育児に係る勤務時間の割振り変更等を促進し、教職員が働きやすい環境を整備し、生徒と余裕をもって関わる時間を捻出する。 ・欠席連絡アプリ、AI 採点システム、大型モニターによる一斉回覧等の活用を進め、学校運営の効率化を継続する。 ・ワークライフバランス支援員、スクールサポートスタッフ、部活動指導員、その他サポーターの活用により、教職員の負担軽減を図る。 教職員向けの年度末の校内調査「ICT の有効活用や配置スタッフとの連携、その他業務改善への工夫を図ることができていますか」に対して、 肯定的な回答を 70%以上 にする。 →???	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容11【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】 <ul style="list-style-type: none"> ・主幹学校司書との連携により、生徒の読書に親しむ心を養い、生涯にわたり学び続ける力、主体的に学びに向かう意欲が涵養される学校図書館の環境整備を行う。 ・地域人材やボランティアと連携し、本の良さを再発見する機会を作る。 文化委員会による図書館活性化の取り組みや、各教科の調べ学習等授業による一斉活用を進め、図書館の入館者数を前年度の2620名より向上させる。 →1月時点、2414名。 全校生徒が本の読み聞かせに携わる機会を年間8回以上設ける。 →朝のブックトーク年9回、文化委員生徒による読み聞かせ活動年12回実施。主体的に生徒が本に関われる仕掛けを引き続き工夫していく。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容 09＜中間反省 進捗＞【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の端末の「心の天気」を毎日実施し、生徒自身が心身の状況について把握し、教職員が生徒の状況の変化に気づきやすい環境を整える。 →心の天気活用率は56.5%。活用率向上への手立てを講じているものの、引き続き取り組みを進める必要がある。 ・デジタル教材を整備して、自習の選択肢の幅を増やすことにより、不登校生徒の学習機会を保障する。 →必要に応じてスタディサプリを活用した。 ・ICT 機器を有効に活用し、会議や事務連絡の伝達時間を効率的に進め、長時間勤務の削減につなげる。 →4月、8月にはICT担当教育研修、8月は校内ICT研修、9月はchromebookの研修に参加・実施し、授業や仕事の効率性をあげるための活用方法や情報共有等継続して行っている。また、ICTアシスタントとの連携により、効率的な端末整理等を進め、教職員の業務削減につながっている。 <p>心の天気の活用率を前年度より向上させる。 →1つ目の指標と同様。継続的な取り組みの工夫を進める。</p> <p>ICTによる生徒の悩み相談に迅速に対応する教員の割合を100%にする。 →相談申告機能への対応は100%。迅速に対応できる体制がある。</p>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容 10＜中間反省 進捗＞【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】

・ゆとりの日や学校閉庁日の実施、時差勤務制度の活用、育児に係る勤務時間の割振り変更等を促進し、教職員が働きやすい環境を整備し、生徒と余裕をもって関わる時間を捻出する。

→関係制度を活用し、教職員の働く環境整備を進めている。

・欠席連絡アプリ、AI 採点システム、大型モニターによる一斉回覧等の活用を進め、学校運営の効率化を継続する。

→すべて活用し、煩雑な事務作業や採点作業にかかる時間は短縮できている。

・ワークライフバランス支援員、スクールサポートスタッフ、部活動指導員、その他サポーターの活用により、教職員の負担軽減を図る。

→それぞれのスタッフの力を借りながら、一定の負担軽減を図れている。

・教職員向けの年度末の校内調査「ICT の有効活用や配置スタッフとの連携、その他業務改善への工夫を図ることができていますか」に対して、肯定的な回答を 70%以上にする。

→調査未実施。

取組内容 12＜中間反省 進捗＞【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】

・主幹学校司書との連携により、生徒の読書に親しむ心を養い、生涯にわたり学び続ける力、主体的に学びに向かう意欲が涵養される学校図書館の環境整備を行う。

→図書館活用について授業活用、文化委員会による絵本読み聞かせを行っている。また主幹学校司書の方にお昼休みに「移動図書館」を進め、短い昼休みでも貸出が行える工夫を実施している。

・地域人材やボランティアと連携し、本の良さを再発見する機会を作る。

→ブックトークを毎月実施している。生徒の反応もよい。

文化委員会による図書館活性化の取り組みや、各教科の調べ学習等授業による一斉活用を進め、図書館の入館者数を前年度の 2620 名より向上させる。

➢1703 名（9 月末時点）（昨年度 1550 名）※現時点未達成

➢貸し出し冊数 1113 冊（9 月末時点）（昨年度 年間 1012 冊）

全校生徒が本の読み聞かせに携わる機会を年間 8 回以上設ける。

➢7 回実施（9 月末時点）※今後 10 月～2 月で 5 回実施予定。※達成予定

次年度(今後)への改善点

①心の天気を継続実施する工夫について校内でも検討する。

②サポーターの方の活用を継続し、教職員の業務分担について取り組みを進める。

③主幹学校司書と連携し、本に触れる機会、読書の効用について実感できる取り組みを検討する。